

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコリア）		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
	背景となる特性	支援のアイデア	
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点) E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点) F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのかんことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたいか分からない	
		12) 誰に伝えていいか分からない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりをわかりやすいようにする(時間の視点・場所の視点) I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	
		23) 細部が気になり違いに敏感	
24) 少しの違いで大きな不安を感じる			
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（言葉・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

本人の強み（ストレングス）	活かせそうな場面や状況
<p>わかること・できること 例) なくなったら終わり、ペットボトルのふたを開ける ハサミを使うのが上手 など</p>	
<p>好きなこと（遊び方、過ごし方、キャラクターなど） やりたがること 例) ハンモックで揺れる ○○のキャラクター ピッタリはまる 色を合わせる</p>	
<p>得意なこと（これには助けられているなど）見方を変えれば 得意かもしれないこと 例) 目的がわかれば待つことができる 変更は苦手だがいつもと同じ ことはできる</p>	
<p>その他</p>	

田中さんの基本情報

差込資料⑦

名前：田中正則さん(仮名) 年齢：32歳 性別：男性
診断名：自閉スペクトラム症 重度知的障害 IQ:30
利用しているサービス：共同生活援助・生活介護・行動援護

【主な生活歴】

言葉の遅れと多動傾向から3歳児検診時に発達遅れを指摘され発達外来を受診し、自閉スペクトラム症との診断を受ける。言葉をコミュニケーションの道具として使えず、常に多動で落ち着きがなかった。就学前まで地元の保育園に通っていたが、他の子どもに興味を示さず、集団活動にうまく参加できなかった。特定のおもちゃに固執することや、状況の変化が苦手なこともあり一人で過ごすことを好んでいた。

小学校より特別支援学校に行くようになり、高等部まで同じ特別支援学校に通学した。高等部卒業後、自宅より生活介護事業所に通うようになり、30歳の時にグループホームに入居。現在はグループホームから生活介護事業所に通所し、休日はヘルパーとの外出を楽しんでいる。

【普段の生活】

田中さんは、グループホームでは毎日決まった日課に沿って過ごしています。食事は他の入居者と一緒に食べますが、他の時間は自分の部屋でキラキラした好きなおもちゃを見ながら静かに過ごしたり、ときどき好きなアニメの動画を繰り返し観て楽しんでいます。

生活介護事業所では、1人でできる作業を中心とした活動に取り組んでいます。活動の中でも職員と車でドライブに出かけることをとても楽しみにしています。

休日には、グループホームの自分の部屋で過ごしていることも多いですが、月に1～2回は行動援護を利用してヘルパーと一緒に近所の公園や、外食に行くことを楽しんでいます。

【主な行動上の特徴】

言葉をコミュニケーションとして使うことはほとんどなく、周りからの声かけに反響言語（エコリア）で返すことがよくあります。

外出先でトイレマークを見て自分から入っていくことがあるので、マークを手がかりにして動いている時もあるようです。絵本に載っている車のイラストを見て、「お出かけ」と言いながら外に出ていこうとすることもありました。同じマークを見つけると重ねて遊んでいることもありました。

聴覚に過敏さがあり、外出時や騒がしいところでは手で耳をふさいでいます。

身体の使い方がぎこちなく、体が傾いたような歩き方をしています。

キラキラするものが好きで、部屋でキラキラする物が入ったおもちゃをずっと見ていることもあります。また、柔らかいものを触ったり水を触ったりして、その感覚を楽しんでいることもあります。特に水が見えると必ず触りたがり、水を触り始めるとなかなかやめられないときもあります。行動援護で出かけた時に水遊びをヘルパーに止められて頬を叩く自傷をすることがありましたが、最近はタイマーを使って水遊びも自分でやめることができるようになりました。

体を揺らす感覚も好きなので、体を前後に揺らしていることもあります。

普段は穏やかに過ごしていて、慣れていることや本人が分かっている活動などは落ち着いて取り組むことができますが、本人にとって思いがけないことや、急な変更があると混乱してしまいます。混乱すると表情が硬くなり、動きが止まることもあり、混乱が大きいと頬を叩く自傷をすることもあります。また、支援者に何度も同じことを確認することもあります。

支援手順書/記録用紙

差込資料⑧

【作業場面】

日付け		氏名		記入者	
-----	--	----	--	-----	--

工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子(記録)
事前準備			